

CMSI Seminar オーガナイザー
淡川孝義（東京大学薬学系研究科）

去る 2011 年 12 月 20 日（火）、薬学部南館 S1 セミナー室にて CMSI-GCOE セミナーが学内・外の参加者を多数集めて開催されました。本セミナーは 2008 年 7 月より実施されているグローバル COE プログラム「学融合に基づく医療システムイノベーション（CMSI）」（拠点リーダー：片岡一則教授）の一環として企画、開催されています。



今回のセミナーはカナダ、ブリティッシュコロンビア大学から Jon Freeman 博士に、「Structure and behavior of four-helix bundle cavitein systems」というタイトルで、人工機能性ペプチドの設計、デザインに関する最新の研究について講演をして頂いた。タンパク質の三次元構造のより深い理解をし、人工的なペプチド、タンパク質触媒の創出のために、三次元構造を持ったペプチドを有機合成する技術が注目を集めている。今回の講演では、低分子化合物の土台にペプチドを結合し、立体構造をデザインする cavitein という独自の人工ペプチド創出技術について説明して頂いた。そのデザインの仕方、出来上がった構造の解析技術等に多くの関心が寄せられた。

講演参加者からは数多くの質問が寄せられ、30 分を越える長きに渡り、活発な議論が行われた。当天然物化学研究室からも全員が出席しており、酵素の立体構造解析の研究にたずさわっているものも多いため、Freeman 博士の X 線結晶構造解析の技術、有用酵素触媒の人為的創出の可能性に多に感銘を受けた様子であった。以上より、今回の講演会は人工有用酵素触媒創出という新しい分野の最先端に触れることができる貴重な機会となり、非常に有益だった。ご支援頂きました CMSI の皆様に厚く御礼申し上げます。